

教職課程カリキュラムフローチャート【経済学部】

CP (カリキュラムポリシー)	科目区分・教科	1年次		2年次		3年次		4年次			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門知識と実践力を身に付ける科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教職論 教育心理学	教育原論 特別支援教育概論 教育課程論	教育制度論 教育方法論 (情報通信技術の活用を含む。)	教育相談	生徒・進路指導論 道徳教育指導法		特別活動・総合的な学習の時間指導法 教育実習Ⅰ (中・高) 教育実習Ⅱ (中・高) 教育実習事前事後指導 (中・高)		教職実践演習 (小・中・高)	
	教科及び教科の指導法に関する科目	中一種 (社会)	西洋史 (教) 東洋史 (教) 経済学概論	日本史 (教) マクロ経済学入門 ミクロ経済学入門 統計学入門	経済史 人文地理学概論 (教) 法学概論 (国際法を含む。)(教) 民法 (総則・物権) 哲学概論 (教)	マクロ経済学 ミクロ経済学 財政学入門 日本経済論入門	経営史 自然地理学概論 (教) 地域経済論 統計学 財政学 経済統計 倫理学概論 (教)	日本経済史 経済学史 民法 (債権) 経済政策入門 日本経済論 環境経済学入門 社会科・公民科教育法	日本経営史 西洋経済史 交通論 労働と法 国際経済学 公共経済学入門 社会科・地理歴史科教育法	近代日本経済史 東洋経済史 行政法 (作用法・組織法) 経済政策 産業組織論入門 環境経済学 地誌学 (教)	行政法 (救済法) 社会保障論 公共経済学 都市経済学 医療・福祉マネジメント 産業組織論
	高一種 (地理歴史)	西洋史 (教) 東洋史 (教)	日本史 (教)	経済史 人文地理学概論 (教) 人口学	日本経済史 経済学史 自然地理学概論 (教)	経営史 地域経済論	日本経営史 西洋経済史 社会科・地理歴史科教育法	近代日本経済史 東洋経済史 地誌学 (教)	交通論	都市経済学	
	高一種 (公民)	経済学概論	マクロ経済学入門 ミクロ経済学入門 統計学入門	法学概論 (国際法を含む。)(教) 民法 (総則・物権) 財政学入門 哲学概論 (教)	マクロ経済学 ミクロ経済学 日本経済論入門	民法 (債権) 経済政策入門 日本経済論 環境経済学入門	統計学 財政学 経済統計 倫理学概論 (教) 社会科・公民科教育法	行政法 (作用法・組織法) 経済政策 産業組織論入門 環境経済学	労働と法 国際経済学 公共経済学入門	行政法 (救済法) 社会保障論 公共経済学	医療・福祉マネジメント 産業組織論
	高一種 (商業)	簿記入門	初級簿記	中級簿記 会社法 金融論入門	上級簿記 金融論 販売管理論	商法 (総則・商行為) 経営管理論	経営戦略論 流通管理論 商業科教育法	マーケティング論 管理会計論	国際金融論 生産管理論 税務会計論	財務管理論 会計監査論 人的資源管理論	
免許法施行規則第66条の6の科目	現代国家と法 (日本国憲法) スポーツA 健康の科学	情報処理演習Ⅰ スポーツB	情報処理演習Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ							
部 教 での課 程 指 導 委 員 会、学	オリエンテーションガイダンス等における指導	教職課程の履修について教員になるためのベースを作る。教育実習履修の内規説明	履修カルテの説明、関係科目、自己実現項目の説明振り返りにより課題を発見し、次につなげる。履修指導	教職への心構え 自己実現項目の振り返りの開始 今後のスケジュール確認 履修指導 教育実習を前に講義から実践へ内諾の説明	後期で教職への意思を確認する 履修指導 次年度の教育実習内諾期間の確認	教職課程継続の意思確認 教育実習への心構えと事前指導の受講案内 チームワークの構築 コミュニケーションの必要性 自らの行動への責任 履修指導	教育実習の直前指導、ゼミ担当者との面談 教育実習の手続き及び準備最終履修指導 教育実習4週間(3週間、2週間)	介護等体験の心構えと注意事項 社会福祉施設での介護等体験	卒業までの過ごし方履修カルテの仕上げ 教育実習のアンケート実施 免許状申請手続きの説明		

DP (ディプロマポリシー)
DP-① 【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身に付け、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。
DP-② 【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。
DP-③ 【主体性・協働性・倫理性】 経済・生産活動の担い手として、高い倫理性をもって、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。